

「農業技術の匠」： <sup>やまうち</sup>山内 <sup>ひとし</sup>齊 さん（青森県弘前市）  
～ りんごの効率的品種更新方法「長穂接ぎ」 ～



〔山内 齊さん〕

1 技術確立の背景(目的)

近年、消費者ニーズの多様化と数多くの品種が発表され、りんご生産者は、地域や自園にあった売れる品種の選択に迫られているとともに、従来品種の価格が低迷していることから、優良品種への更新が急務となっていました。

そのため、効率的ですみやかに品種更新ができる技術の確立と普及が求められていました。

2 技術概要(技術効果)

りんごの品種更新法としては高接ぎがあり、従来方法だと、接ぎ穂の芽が2～3芽であるため、果実生産までに4～5年要し、この期間が未収益期間となっていました。

そこで、山内さんは、7～8芽以上ある枝を接ぎ穂として利用する「長穂接ぎ」を確立しました。

この技術は、早期の枝量確保を可能とし、果実生産まで2年と大幅に未収益期間を短縮でき、すみやかな優良品種への更新と生産量の回復に有効です。

また、雪害等で大枝が欠損した場合でも、主枝等の皮部にも直接接ぐことで欠損した部位を速やかに回復できるなど、極めて実用性の高い技術となっています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

山内さんが確立した長穂接ぎは、「青森県りんご生産指導要領」への採用や、「青森県りんご協会」による技術指導が行われた結果、本技術に取り組む生産者が数多く現れ、広範囲に普及しています。

また、地域や園地条件を選ばずに優良品種への更新や欠損した結果枝の回復、不足解消が速やかにできることから、今後も、高収益が期待できる品種構成や園地づくりが可能となる技術であります。



〔長穂を主枝に接ぎ木〕

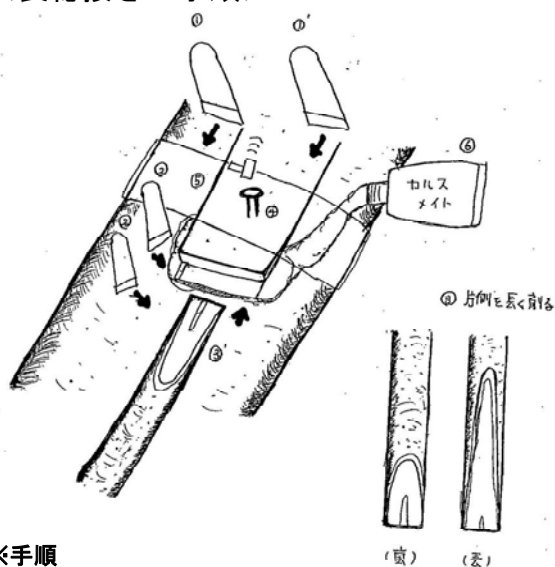
※最寄りの普及指導センター { 青森県中南地域県民局地域農林水産部普及指導室  
住所：青森県弘前市蔵主町4  
TEL：0172-34-2136

## <「農業技術の匠」のポイント>

### 長穂を主枝に接ぎ、早期の果実生産を実現

- ① 接ぎ穂として、長さ1m程度の休眠枝や40cm程度の新梢を利用する。接ぎ穂はできるだけ太いものを使用する。また、ウィルスの心配のない接ぎ穂を利用する。
- ② 休眠枝は2月に採取し、接木するまで乾かないようにビニールなどに包み、日光の入らない涼しい場所で保管する。
- ③ 新梢は、新梢の止まっている枝を使うか、緑枝の部分を切除して木質化した枝を使うと良い。
- ④ 接ぐ時期は休眠枝が4～5月、新梢が6～8月とほぼ生育期間を通して行える。
- ⑤ 接ぐ場所、骨格である主枝の上部または側面とする。
- ⑥ 接ぎ木される部分をコの字型に切皮し、くさび形に切った接ぎ穂を深く差し込み、釘やひもで固定する。
- ⑦ 接ぎ木後、枝量が確保されるまで剪定しない。

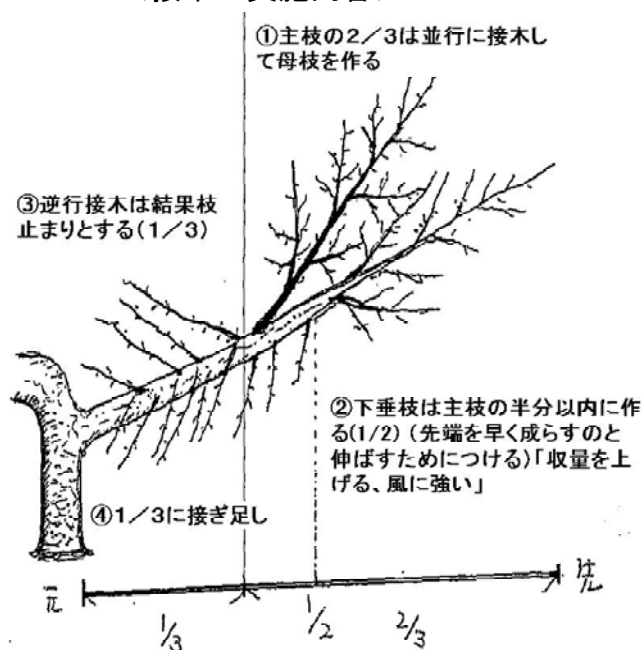
#### <長穂接ぎの手順>



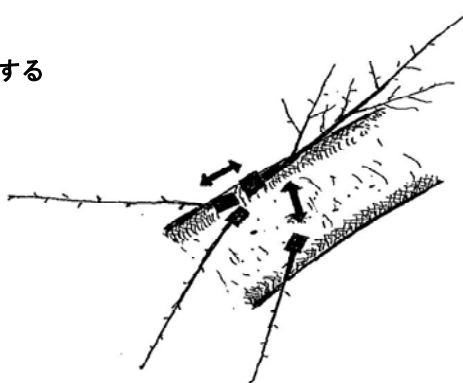
#### ※手順

- ①、①' 接木ナイフで縦に2本の切れ目を入れる  
(木質部に達する深さで切る)
- ②、②' 接木ナイフで横に2本の切れ目を入れる  
(皮を取り除く)
- ③、③' 穂木を削り、皮の下に挿し込む
- ④ 釘を打ち込み固定をする
- ⑤ 接木テープで固定する
- ⑥ テープで残っている部分にカルスマイトを塗布する  
(乾燥しないようにする)

#### <接木の実施内容>



#### <接ぎ足し>



- ※接木した付近に翌年、接ぎ足しをすれば牽制されて早く成る
- ※接木したものに再度接木をする。反対方向に接木する上向枝の根元に接ぎ木する